

# 週報

【2023/4 第3例会】

例会日：毎週金曜日  
 例会場：碧海信用金庫本店3F 安城市御幸本町15-1  
 TEL: 0566-75-8866 FAX: 0566-74-5678  
 Email: anjo-rc19580206@katch.ne.jp  
 HP: http://www.anjo-rc.org  
 ■創立日：S33年1月10日  
 ■RI加盟認証日：S33年2月6日

## 第3135回例会

2023年4月21日(金) 12:30~13:30

司会者：河田 光司君

ソング：「それこそロータリー」 安城ロータリー体操「手に手つないで」

雑誌委員会：前沢 宏允君

ゲスト及びビジター：イルミヴァルタ エリノーラ イロナさん

2023年度 米山記念奨学生

フィンランド出身 名古屋大学修士課程1年

加藤 弘様 功労会員



出席報告 沓名 一樹君

全会員数	51名
現在出席義務者数	40名
本日の出席人数	35名
内出席免除者の出席人数	
出席率	74.40%

2022-23年度：RIテーマ

「IMAGINE ROTARY」

安城ロータリークラブ会長方針：

「チャレンジロータリー、笑顔で学ぼう」

■会長：奥田 法行

■幹事：市川 護

■クラブ会報：赤木禎行・辻隆士・恒川憲一・成田孝則

## ■ 会長挨拶

奥田 法行会長

### 1. 4/15・16 WFF開催



## SDGs 25 『インクルーシブ公園』ってなに？



今、日本の公園が変わりつつあります。障外の有無や年齢、性別、国籍などを問わず、すべての人が楽しく遊べることを目指したインクルーシブ公園が首都圏を中心にでき始めています。今日はどんな公園なのかを、お話いたします。



インクルーシブとは「みんなが含まれている」という意味です。インクルーシブ公園は、ときに「障がいのある子どもが遊べる遊具がある公園」という意味で誤解されがちですが、「障がいのあるなし、子どもか大人かにも関係なく、すべての人が利用できる公園というのが、ポイントです。これまでは、物理的・心理的バリアによって公園を利用しづらい人たちがいました。すべての子どもが歓迎され、地域の多様な人々が交流できる場となるため生まれたのが、インクルーシブ公園なのです。

### インクルーシブとは「人と人の関係性」によりつくられる

### インクルーシブ公園のデザイン

Q インクルーシブ公園はなぜ必要なの？

私もみんなと一緒に遊びたい！でも車椅子だから…

遊び場では、あちこち動き回る子どもにつきっきり。まわりの視線も冷たくて、人の多い公園には行きづらい…

障がいのある子や外国にルーツのある子たちと、どう接していいかわからない。会ったことがないから

A これまでの公園では遊びづらい人たちがいたから

インクルーシブ公園のデザイン例

自然がいっぱい  
 トイレや水場を近くに  
 トイレにはユニバーサルシート(大人用ベック)も必要

自然がたっぷり  
 落ち葉や水たまりなどの自然がある場所は子どもの一番の遊び場。休憩できる場所も必要。

さまざまなニーズに合わせた遊具  
 身体障がいだけでなく、知的障がい、発達障がいなど、さまざまなニーズに合わせて遊具がデザインされる。

回転系遊具  
 円盤ブランコ

- ① 空間構成、遊具
- ② 木々の自然、水
- ③ 休憩スペース
- ④ ユニバーサルトイレ
- ⑤ 地域の理解や文化全体が絡み合ってデザインされる。

## 日本のインクルーシブ公園の実例



日本では2006年にバリアフリー新法が施行され、公共施設のスロープやトイレなどの整備は進みましたが、公園や遊具は手つかずのままでした。2018年に東京都議会で提案されたことをきっかけに、東京都でインクルーシブな遊び場の整備が進みました。これから、地元の安城市でもこのような公園整備が進むことでしょう。

### ■ 幹事報告

市川 護幹事

1. 本日例会終了後、次年度理事会を開催致します。
2. 新会員候補者をご案内します。異議のある方は7日以内に理事会に申し出てください。
3. 4/28(金)定款により休会、5/5(金)法定休日により休会となります。
4. ゴルフ部会より 6/3(土)安城RCゴルフコンペ取り切り戦を開催致します。6/7(水)18:30～すず岡にて総会を行います。

### 【本日のセレモニー】

・米山記念奨学生 奨学金授与

イルミヴアルタ エリノラ イロナさん  
2023年度 米山記念奨学生  
フィンランド出身  
名古屋大学修士課程1年



### ◆ 卓話

担当:横山 真喜男君

#### テーマ「卒論について」

卒論とテーマに書いたのですが変更して大学生活にします。4年間の前半2年間は埼玉県の川口市に住んでいました。キューボラのある街の川口です。キューボラというロマンチックな気がしますが鉄を溶かす溶鉱炉みたいなものです。アパートの両隣が鋳物屋さんで屋根のトタンがまっ茶に変色していました。ある日大学の友人が遊びに来るといので地図を描いて渡して待っていると大家さんが電話だと呼びに来てくれるので出てみますと「分からないアパートが見つからない」と言います。どこにいるのか周りの風景を聞いてみますとアパートから見える50mほど先の公衆電話から掛けているようです。電話を切り、迎えに行くと「このアパートは人が住んでいるのか」と感心されました。僕の部屋はトイレの隣で壁と柱に隙間があり臭いが僕の部屋にまで漂ってきました。大家さんの住まいとアパートの間には芝生の張った庭があり、大家さんの子供がよく遊んでいました。僕ともう一人の新入生のために大家さんが歓迎会を開いてくれたことがありましたが奥さんは男は東大か慶応の医学部でにきやといっばくらくらにジョークを言っていました。ご主人は慶応の医学部出身でしたが医者ではありませんでした。因みに奥さんは学習院でした。後半の2年間は西武新宿線の沼袋駅、中野区に住んでいました。近くにサークル仲間が住んでいたののでそこに引っ越しました。ホントの理由は好きな女性も近くに住んでいたからです。仕送り間近になるとそこへ晩御飯をよく食べに行きました。彼女は妹と一緒に暮らしていて妹が炊き込みご飯を作るから遊びにおいでというので行きました。炊き込みご飯は二回目で前は姉の作った炊き込みご飯でご飯に芯がありました。4杯ほど我慢して食べました。なんと妹の作ったご飯も芯があり2杯でやめました。そうしたら「おねーちゃんの時はおもったくさん食べたのに」とぐずり出しました。アパート近くに新井薬師公園があり、当時流行していたストリーキングをサークル仲間で行ったこともあり。銭湯は一日おきぐらいでいくのですが帰りにワンカップ日本酒を買って飲んでいました。ある時、気づきましたワンカップ4本よりも4合瓶の方が安いじゃん。実行しました。しかし、この計画は見事外れました。4合瓶が4日持たないのです。

卒論の話をする、大学の専攻は理工学部応用化学科でした。サイエンスじゃなく、ケミストリーの化学です。応用化学科は二つに分かれていて一つは白衣を着て薬品を扱う工業化学コース、もうひとつは化学反応の装置を設計したりする化学工学コース。こちらは作業服がメインです。僕は化学工学コースに進みました。装置の大きさやパイプの太さなどを計算して設計していく学問です。うちのゼミのテーマは二つありひとつは液中燃焼です。液体の中でガスを燃焼させ熱交換効率を上げる研究。もう一つが横山が携わった人工臓器です。人間の体はいろいろな臓器がありますがそれらは一つの装置として考えられます。心臓は血液を全身に送るポンプです。腎臓は血液中の不純物を除去する浄化装置です。僕はこの人工腎臓に関わってきました。具体的には、血液と言っても不純物が溶け込んでいるのは血しょうという半透明の液体で血球には溶け込んでいないのです。そこで人工腎臓に通す前に血球と血しょうを分離して血しょうだけを装置に入れ、出てきたらまた、併せて体内に戻そうという考えです。当時の透析装置は血液をローラーポンプのようなもので装置に導入してました。その時に血球がつぶれてしまうのです。ゼミは透析装置の開発会社と病院とうちの研究室と三者共同で行っていました。血液を血しょうと赤血球とに分離する実験をするのに必要なものといったら大量の血液です。どうやって大量の血液を手に入れますか。人間の血液を使用するわけにはいきませんので、牛の血液を使います。牛が大量の血液を出すところと言えば、屠殺場です。東京の食肉市場へもらいにゆきます。受付で学校名と欲しいモノ、数量を記入して取りに行きます。よその大学では心臓とかもらいに来ていました。気のせいかもしれませんがその施設の床は脂で滑りやすかったような気がします。豚は電気で感電死です。牛は撲殺です。撲殺は正しくありませんかもしれませんが。バットのよう棒に直径1センチほどの釘のようなものがついた道具で眉間を殴ります。すると牛は立っていらなくなり、どたりとペシャンと伏せたような状態になります。するとその眉間に開いた穴にワイヤーをさして、脳みそをぐるぐるとかき回して終わりです。死んでしまえば血液が上手く取れないので伏せた状態の時に喉をかき切ってもらい血液をポリタンクに受け取ります。心臓が弱ってくると出が悪くなりますので度胸とスピードが肝心です。慣れてくると心臓のあたりを足で踏んで出します。以上が血液採取の方法でした。そのあと牛は獣医による検査の後、四、五人の手で肉屋にぶら下がっているような状態になり搬出されます。不思議だったのは解体場の中は、頭、足、皮などブロックごとにわかれていたんですがタンはいつ回収するのかなあと思いました。

以上、皆さんがなかなか経験できないような僕の卒論の一部でした。

